

8月号

No.2

地域医療だより
奥三河の風 かせ

[発行元] 新城市地域医療支援センター
電話 0536 (23) 7602

[協 賛] 設楽町、東栄町、豊根村
新城医師会

[発行日] 平成 20 年 8 月 1 日 (火)

はじめに 新城医師会 星野順一郎会長



この7月1日に地域医療だより「奥三河の風」が創刊され、No.2、8月号に私の文章を載せて頂き有難く思っています。

さてこの数年来、当地でも救急医療、地域医療の崩壊が進行しているのは御存知の事と思います。10年程前から医療関係者がそれぞれ医療の危機を予見し、国に意見を進言してきました。

国はそれを知ってか知らずか、国家財政の建て直しの名の元に、医療、福祉の予算の必要な増加を押さえ、医師数・看護師数も押さえてまいりました。他の原因も合わせ、その結果現状の様な医療の崩壊が起ってしまいました。

国もやっとその事に気づいたのか少しづつ方針を変えていますが、当面その崩壊の程度は今後、益々ひどくなるであろうことを地域の皆さんに知って頂きたいと思っています。もちろん地域の行政や地元医師会もそれぞれ努力していますが。

勤務医を始めとした医療関係者の使命感やボランティア精神だけでは崩壊は止まりません。地域の皆さんの協力が是非とも必要です。医師の数だけではありません、看護師や介護士の数も全く不足しています。これらの職種の人々が足らずに医療・介護体制がさらに崩壊しつつあります。看護師や介護士の皆さんが自分の地域で働いて、支えて頂きたいと思っています。

新城医師会の会長として地域の皆さんの御支援とご協力を願っています。宜しく御願い致します。

開業医訪問 あいきょうクリニック 相京奈美院長



[診療科目] 一般内科、外科
[専門科目] 内分泌（甲状腺、副甲状腺、副腎）乳腺、消化器肛門疾患

野田上市場交差点前に開業し、瞬きの中、六年が過ぎました。無事やってこられたのも地域の皆様やスタッフのおかげと感謝し、これに報いる様、住民の健康維持に尽くしていきたいと思っています。

開業していて嬉しいのは、頑張ってる大勢の方々に直接係わり、その姿に私自身が励まされる事です。今後楽しく元気に、そして綿密に診療に従って行く所存です。

専門科目の甲状腺、乳腺、消化器肛門疾患の他、副腎疾患に関連し学んだ高血圧・高脂血症や、副甲状腺疾患に関連し学んだ骨粗鬆症にも力を入れています。

今後ともどうぞ宜しく御願い致します。

住所 新城市市場台一丁目 7-5

電話 0536-24-1777



勤務医訪問 豊根村診療所 小林英明所長



[診療科目] 内科、小児科、外科
[スタッフ] 医師1名、看護師1名、事務員1名

豊根村は愛知県の東北部に位置し、長野県・静岡県に境を接し、新城より車で約1時間の場所にあります。豊根村診療所は豊根村の温泉の横にあります。たまに仕事の後にそのまま温泉に入ってから帰宅する事もあります。

田舎の診療所という古い建物をイメージするかもしれませんが、新しくなって10年経ってませんので非常にきれいです。1,400人の村の診療所ですが、もう一つ診療所がありまして旧富山村まで車で50分かかりますが、月曜日、水曜日の午後に診察を行っています。

せっかくこのような場所に赴任したので何か変わったことをしようと思い、名古屋コーチンを2羽飼っています。ので、卵は自給自足です。

みなさんにご迷惑をおかけする事も多いと思いますが、地域医療のためにがんばりたいと思いますので、よろしく御願いいたします。

住所 豊根村上黒川字長野田 24-1

電話 0536-85-1675

[あいきょうクリニック]



受付

診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~11:30	○	○	○	△	○	○
15:30~18:00	○	○	○	△	○	△

休診日:日曜日・祝祭日、木曜日、土曜日午後



待合室



あいきょうクリニック

[豊根村診療所]



受付

診療時間

診療時間	月	火	水	木	金
8:30~12:00	○	○	○	○	○

水曜日:東栄病院からの派遣医師

休診日:土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始の休日



待合室

往診時間	月	火	水	木	金
13:00~16:00	△	○	△	○	○

富山診療所	月	火	水	木	金
14:00~16:00	○	△	○	△	△

夜間診療	月	火	水	木	金
18:00~19:00	△	△	△	○	△



豊根村診療所



富山診療所

訪問看護ステーション情報

7月1日の開設後、市民病院及び市内開業医の先生そしてケアマネジャーを始め関係機関の皆様のご理解とご指導をいただき、ケアマネジャーからの利用者の紹介や相談件数も増加しております。訪問看護サービスの活動範囲が広がったこともあり、機動性が求められています。また、高齢者世帯、1人暮らしのお年寄り世帯が増える中で、在宅医療の充実が地域の切実な願いであることを実感しております。ステーションは24時間体制で、緊急事態に備えております。

「手まめ、足まめ、口まめ」でがんばりますのでよろしくお願い致します。



救急車利用のマナー向上について

新城市消防署 救急グループ

救急車による救急搬送件数は年々増加傾向にあり、その半数近くは緊急性のない症例です。高齢化が進むこの地域では、病院へ向かう手段がなく救急車を利用する事例が多く見られる中、反対に痛みや異変を我慢して重篤な症状になってしまう事例も見られます。

こうしたことから、新城市消防署では救急車の適正利用の啓発に努めておりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願い致します。



